

SD (Staff Development) 関連事業

<事業概要>

大学を取り巻く環境が急激に変化している状況において、大学の管理運営のあり方が重要な位置を占めるようになり、大学職員の担う役割は非常に大きくなっています。また、2017年4月1日にSDが義務化されたことにより、大学職員の能力開発・向上は必須となりました。そのような環境に適応すべく、大学職員を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための様々な事業を展開しています。

<主な活動項目>

- ◆大学職員共同研修プログラム
- ◆SDフォーラム

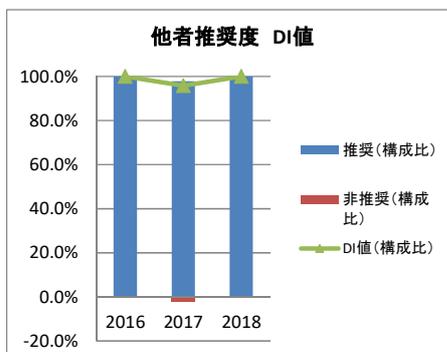
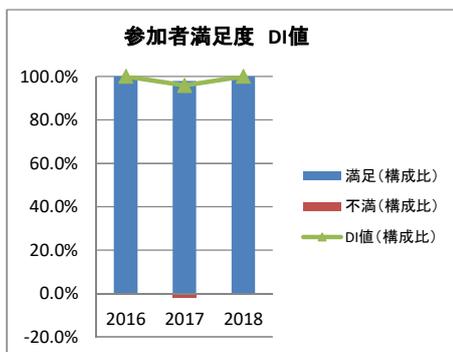
※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

◆大学職員共同研修プログラム

「ビジネスマナー」「キャリアデザイン」「ファシリテーション」「企画立案力」など、社会人としての基礎知識から大学職員としての汎用的なスキルを修得できる場を提供します。



<参加者の声>

- 実践的なアドバイスやビデオ利用がとても役に立つと感じた
- 明日から即実践できることばかりだった
- キャリアプラン形成のために必要な自己理解などを掘り下げて学ぶことができた
- 新しい発見があった 具体的に「やってみよう」と思うことができた
- 仕事だけでなく、プライベートでも活かせると思った
- 自分の今までの社会経験の中で、色々と考えていたことが少し整理され客観的な自分も見ることができた

<参加者の声を受けて改善を図った点>

○大規模な加盟校では、独自の研修プログラム(業務委託を含む)を実施しているケースが多くみられる一方で、中小規模の加盟校では実施が困難なケースも見受けられることから、それら加盟校のニーズを踏まえつつ、社会人としての基礎知識から大学職員として求められる知識や汎用的なスキルを修得できるよう研修プログラムを提供した。

参加者満足度

	2016	2017	2018
満足(名)	109	95	134
不満(名)	0	2	0
満足(構成比)	100.0%	97.9%	100.0%
不満(構成比)	0.0%	-2.1%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	95.9%	100.0%
参加者数(名)	114	98	150

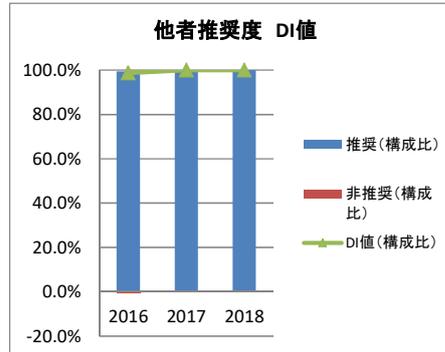
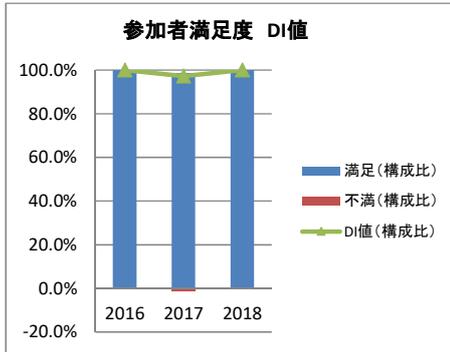
他者推奨度

	2016	2017	2018
推奨(名)	106	94	132
非推奨(名)	0	2	0
推奨(構成比)	100.0%	97.9%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	-2.1%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	95.8%	100.0%
参加者数(名)	114	98	150

◆SDフォーラム

<事業概要>

高等教育の動向を踏まえた先進事例紹介や外部有識者の知識、ノウハウを獲得する場として、基調講演および分科会における事例報告や意見交換を通じて、SDIに関する情報交流の場を提供します。



参加者満足度

	2016	2017	2018
満足(名)	161	71	108
不満(名)	0	1	0
満足(構成比)	100.0%	98.6%	100.0%
不満(構成比)	0.0%	-1.4%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	97.2%	100.0%
参加者数(名)	205	154	159

他者推奨度

	2016	2017	2018
推奨(名)	159	86	104
非推奨(名)	1	0	0
推奨(構成比)	99.4%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	-0.6%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	98.8%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	205	154	159

<参加者の声>

- フリーディスカッションでは、本音で課題を議論できて良かった
- SDの義務化を契機とした大学職員の仕事のあり方、働き方を再考するよい機会となった
- 基調講演も分科会も充実した内容であった
- 他大学の状況を知ることが出来るというのは非常に重要なことであると再認識した
- 欲しかった情報だけではなく想定していなかった情報も得ることができた
- 時間配分が適当で集中して受講することができスキルアップに役立った

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 技術革新によるAIやIoTなどの高度化, さらに進行するグローバル化を受けて, 高等教育機関を取り巻く環境は, 急速に変化しているを踏まえつつ, 加盟校からのニーズや課題, 関心の高まっているテーマを取り上げ実施した。